

対ジャマイカ草の根・人間の安全保障無償資金協力
「エプワース公立小学校校舎建築計画」
引渡式

2019年6月6日、セント・アン県において、対ジャマイカ草の根・人間の安全保障無償資金協力「エプワース公立小学校校舎建築計画」の引渡式が開催されました。

山崎大使は、国の社会経済的発展の最も重要な基礎は教育であると述べ、日本としてジャマイカの包括的な発展のため、1995年以来、草の根等の事業を通じて教育や保健等の基礎生活分野への支援を継続してきたことを紹介しました。その一環である本計画によって、過密状態であった同校の教育環境が改善されたことを喜びつつ、エプワース小学校の子供たちが最善の教育機会の中で成長していくことを望みました。

エプワース公立小学校は、未舗装の道の陰しい山中にありますが、スクールバスを運行したことで年々入学希望者が増加した結果、教室不足が顕著となり、入学希望者の受け入れを停止し、教室を黒板で仕切って複数のクラスの授業が行われるなど、困難な教育環境が続いていました。

本計画によって新しい2教室が建築されたことで、同校は新入生の受け入れ人数を増やすことができ、より多くの子供たちが教育にアクセスできるようになり、より質の高い教育を受けることができます。

今般の引渡式には、被供与団体である小学校の代表、ダコスタ教育省教育部門官、国家教育基金等の教育関係者、学校関係者、報道関係者、地域住民代表などの来賓が出席しました。

被供与団体の代表であるスペンサー校長は、誰もがこの校舎を見て誇りに思い、それが地域全体のエンパワーメントに繋がるだろうと述べて日本の支援に感謝しました。ジャマイカ側を代表して挨拶したダコスタ教育省専門官は、教育を通して知性が養われることを強調するとともに、日本政府がジャマイカ国内で実施してきた草の根事業の歴史と概要を振り返りながら、日本のジャマイカに対する支援への深い感謝の意を表しました。



挨拶する山崎大使



ミリセント・ダコスタ教育省専門官



カール・スペンサー・エプワース公立小学校校長



感謝の歌を披露する児童代表



新教室のテープカット



引渡を喜ぶ地域住民の代表ら